

2022年度（第47回）学術研究振興資金 学術研究報告

学 校 名	法 政 大 学	研究所名等	大原社会問題研究所
研究課題	日本資本主義と女性の社会的環境に関する総合的研究 －「平塚らいてう資料」のデジタルアーカイブ構築を中心－	研究分野	文 学
キーワード	①デジタルアーカイブズ ②ジェンダー ③史料研究 ④近現代史 ⑤社会運動		

○研究代表者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
榎 一 江	法 政 大 学 学 部 大原社会問題研究所	教 授	近代日本の女性労働に関する実証研究の推進

○研究分担者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
差波 亜紀子	日 本 女 子 大 学 学 部 日 文 学 部 史 学 学 科	教 授	女性知識人、平塚らいてうに関する研究の推進
古 俣 達 郎	法 政 大 学 学 部 HOSEI ミ ュ ー ジ ャ ム	准 教 授	デジタルアーカイブ、展示に関する研究担当
堀 川 祐 里	新 潟 国 際 情 報 大 学 学 部 国 際 学 部 国 際 文 化 学 科	講 師	女性労働をめぐる運動と思想に関する研究担当
堀 内 暢 行	法 政 大 学 学 部 大原社会問題研究所	RA	資料目録・デジタルアーカイブの構築担当
井 上 直 子	法 政 大 学 学 部 大原社会問題研究所	RA	近代日本女性史をめぐる研究蓄積の調査担当

日本資本主義と女性の社会的環境に関する総合的研究

－「平塚らいてう資料」のデジタルアーカイブ構築を中心に－

1. 研究の目的

(1) 本研究は、近代日本における女性の社会的環境を総合的に把握することを目的とする。具体的には、女性解放・平和運動など社会運動に邁進した平塚らいてう（奥村明 1886-1971）に焦点を当て、没後 50 年を機として 2021 年度に法政大学大原社会問題研究所が受贈した「平塚らいてう資料」デジタルアーカイブの構築・公開を通して、実証研究を推進する。

(2) 本研究の課題

① 「平塚らいてう資料」デジタルアーカイブの構築

「平塚らいてう資料」とは、NPO法人「平塚らいてうの会」所蔵資料と孫の奥村直史家所蔵資料を統合したものである。前者はらいてう自伝の編纂に従事した小林登美枝が保管していた資料を会が引き継いだものであり、もともと奥村家にあったものをらいてうの了解をえて帯出したものと推定される。会では『平塚らいてうの会紀要』などでその一部を紹介してきたが、十分な研究がなされてきたわけではない。後者は、奥村家に残された資料で、奥村直史は孫の立場から『平塚らいてう——その思想と孫から見た素顔』平凡社、2021 年を刊行し、らいてう研究を行ってきたが、一般には公開されていない。もともと一体であったこれらの資料をあわせて整理・公開し、広く学術研究の基盤を整備することが本研究の課題である。

② 日本資本主義の成り立ちが女性の社会的環境に与えた影響についての研究

そのうえで本研究が追究するのは、日本資本主義の成り立ちが女性の社会的環境にどのような影響を与えたのかという問題である。従来、近代日本の女性史は女性解放運動の担い手に焦点を当て、平塚ら知識人の論考を分析対象としてきた。一方、日本資本主義の発展を底辺で支えた女性労働者は、ほとんど資料を残さず、ストライキ等の行動が記録されるのみであった。しかしながら、平塚らが女性だけの手による文芸誌『青鞥』を創刊したのは女性工場労働者の保護を目的とする工場法が公布された1911年であり、国家による母性保護は両者に共通する重要なテーマであった。この知識人層と労働者層との関係に焦点を当てるのが、本研究の特徴である。

1918年から19年にかけて、国家による母性保護を訴えたらいてうに対し、女性の経済的自立を主張する与謝野晶子が批判し、のちに山川菊栄らも加わって「母性保護論争」が展開されたことはよく知られている。実際、らいてうは、1919年に名古屋の紡績工場を視察し、その「悲惨な光景」に直面して「これが地獄でなくて何であろう」と記し、また、市川房枝らと新婦人協会を1920年に設立して婦人参政権運動を展開する際、その機関誌『女性同盟』の創刊にあたって、「将来母となるべき多くの娘たちが工場において資本家の利己心の犠牲となって、彼女の若々しさと愛情の豊かさと彼女にとって何より大切な母性を破壊されねばなりません」と嘆き、女性の地位向上を訴えた。このように、女性解放を目指す女性知識人の多くは、悲惨な境遇にある女性として工場労働者に言及し、彼女らの言説が女性の声として流布するとともに政策に一定の影響を与えたと考えられる。こうした女性知識人の言説と女性労働者の現実とを切り結び、近代日本の知識人層と労働者層とを包括した女性の社会的環境に関する学術的な研究を推進するのが本研究の目的である。

2. 研究の計画

(1) リサーチアシスタント（RA）による目録編成等の基礎作業の推進

① 本年度は、移管資料の全体像を把握し、大原社会問題研究所所蔵「平塚らいてう資料」の目録データを完成させるとともに、デジタルアーカイブ構築の準備をすすめる。

② 平塚らいてうを含む近代日本女性史をめぐる先行研究の検討をすすめる。

(2) 研究会の開催

① 目録の編成、デジタルアーカイブ構築に向けた資料研究会を開催する。

② 近現代日本における女性の社会的環境に関する研究会を開催し、メンバーの増員を図る。

3. 研究の成果

(1) 大原社会問題研究所所蔵「平塚らいてう資料」目録データの完成と資料撮影

①2022年3月、本研究の基礎となる「平塚らいてう資料」が平塚らいてうの会および奥村家より法政大学大原社会問題研究所に正式に寄贈された。そのため、22年度より大原社会問題研究所の研究プロジェクトとして「平塚らいてう資料研究会」を発足させ、従来のメンバーに加え資料寄贈者の参加を得ながら資料整理方針の確認を行った。

②デジタルアーカイブの専門家をRAとして採用し、資料の再整理から目録データの作成までを進めていただいた。8月末で約2700件の目録データの作成にめどがついたため、9月にオンライン研究会を開催し、一般公開およびデジタルアーカイブ構築に向けた今後の方針を確認した。この目録データに基づき、資料撮影の正確な見積もりを取り、撮影を発注することができた。

(2) 近代日本女性史をめぐる研究蓄積の検討

①女性史を専門とするRAに平塚らいてう研究の網羅的なリストを作成してもらい、それを共有しながら先行研究の成果と課題を確認する研究会を3月に実施した。本研究は、これまで異なる文脈で研究されてきた知識人層と労働者層との関係に焦点を当て、日本資本主義の成り立ちが女性の社会的環境に与えた影響を実証的に追究する点に特徴がある。この点について、近年進展が著しい女性労働に関する実証研究を踏まえ、労働者層の現実と広く社会に発信されたいらいてうらの言説との乖離を描出することによって、「母性保護」をめぐる女性を特殊な労働力とした日本独自のメカニズムを探ることができるとの着想を得ることができた。

②「平塚らいてう資料」に関心を持つ研究者のうち、女性間の階級問題に関する日仏比較研究を推進するため、23年度よりメンバーの増員を図ることを決めた。新メンバーは、フランス在住ではあるが、来日した際に「平塚らいてう資料」の概要を確認しており、今後はオンライン研究会やデジタルデータの活用によって共同研究が可能となるだろう。日本史研究者のみならず、国際比較の視点を取り入れることで共同研究の可能性がさらに広がることを期待できる。

4. 研究の反省・考察

(1) 大原社会問題研究所所蔵「平塚らいてう資料」について

①本年度は、目録データの完成とそれに基づく資料撮影を予定していたが、撮影費用が大幅に膨らみ、申請した予算が減額されたこともあり、すべての資料撮影を終えることができなかった。資料の状態に鑑み、撮影したデジタルデータを共有して研究を進める予定であったため、資料を読み込む作業については少し遅れることになった。

②本研究は、まず目録作成と資料のデジタル化を優先したが、デジタルアーカイブ構築後も貴重な原資料を適切に管理・保存し、後世に残していく必要がある。デジタル化作業が終了した時点で、それぞれの資料に必要な処置を施し、保存体制を整える必要がある点を認識した。次年度以降の課題としたい。

(2) 共同研究の進め方について

平塚らいてうに関しては、著作集が編まれ、自伝も刊行されており、それらを活用した研究蓄積も厚い。これに対し、本研究はらいてう自身が記した原稿、日記、メモ、書簡等を含む貴重な一次資料を学術資源として活用する点に特徴があるが、これを共同研究者間で利用可能なものにするための基礎作業に多くの時間を要した。しかしながら、資料のデジタル化が完了すれば、今後の研究活動は極めて円滑に進めることができるであろう。

5. 研究発表

(1) 学会誌等

なし

(2) 口頭発表

なし

(3) 出版物

なし